

社会科学学習指導案

指導者 大西 弘員

- 1 日 時 令和6年11月16日(土) 第1校時(9:00~9:50)
- 2 学年・組 中学校2学年2組 計40名(男子20名, 女子20名)
- 3 場 所 中学校2年2組教室
- 4 題 材 輸送業界の2024年問題
- 5 題材について

本題材は、中学校学習指導要領(平成29年告示)社会科地理的分野 C 日本の様々な地域(2)日本の地域的特色と地域区分 ア (エ)に重点を置いて指導を行う。ここでは、「国内や日本と世界との交通・通信網の整備状況, これを活用した陸上, 海上輸送などの物流や人の往来などを基に, 国内各地の結び付きや日本と世界との結び付きの特色を理解すること。」となっている。これまでの私自身の授業実践においては, 地理的分野・歴史的分野・公民的分野に共通して「持続可能な社会の実現に向けて」というページが教科書の冒頭にあることを大前提に, 「学習の内容が, 生徒の生活とどのように関連しているか」ということを, 授業づくりの軸にしてきた。こうした中, 今回の授業で「輸送業界の2024年問題」を教材として扱うに至った理由を以下のように挙げる。

まずに, 2024年7月30日に, いすゞ自動車株式会社(本社:神奈川県横浜市)から, オートマチックトランスミッション(AT)限定の普通自動車運転免許(普通免許)で運転できる, 小型ディーゼルトラックが発売されたニュースを見たからである。いすゞ自動車のHPによると, 「少子高齢化による担い手不足が生じており, 国内経済を支えるトラックドライバーの人材確保は喫緊の課題であること」や, 「ドライバーの裾野を広げるため, 経済合理性の高いディーゼルエンジン搭載の小型トラックをAT限定の運転免許で運転できるように開発を推進した」(isuzu.co.jp)とあるが, 少子高齢化については現在に始まったことではなく, 長年, 日本社会が抱える大きな課題の一つとなっており, 「なぜ今, このような商品が発売されたのか」ということに素朴な疑問を感じたからである。それについて調査してみると, 「運転免許制度の変遷」と「時間外労働の上限規制が適応されたこと」が関係していることがわかった。

「運転免許制度の変遷」については, 2007年6月1日以前に普通自動車免許を取得した者は, 最大積載量5トンまでのトラックを運転することが可能であったが, 2007年6月2日から2017年3月11日までに取得した者については最大積載量3トンとなり, 2017年3月12日以降に普通自動車免許を取得した者については最大積載量2トンまでと, 約10年の期間で段階的に, 普通自動車免許で運転できる最大積載量が約60%も減少したことがわかった。

また, 「時間外労働の上限規制が適応されたこと」については, 2024年4月以降, 「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」(改善基準告示)が適応された。トラック運転者の1日の拘束時間が13時間を越えないことを原則とし, 最大でも15時間とすることや, 1日の休息時間について11時間以上を基本とし, 9時間を下回らないこと, 運転時間は2日平均1日9時間以内とすることなど, 法改正がおこなわれたことが背景にあることもわかった。全日本トラック協会の試算では, これらが要因となり, 輸送用トラックの輸送能力が2024年には14.2%, さらに2030年には34.1%不足するのではないかとされている。

こうした社会的事象を「教材にすることはできないか」と考えた際, トラック事業者や荷主, そして生徒をはじめとした一般消費者にどのような影響が発生するのかを考えることにより, 先述した学

習指導要領の目標を達成できるのではないかと考え、本時の授業を設定した。

本学級の生徒は、社会的事象への関心が高いだけでなく、ペアワークやグループワーク、ディベートなど協働的な学習を得意としている。特に風刺画やグラフや写真などの資料を読み取り、分析することに長けている。反面、学級内の学力差は激しいものがあり、そのため落ち着きのあるなかで学習を進めていくことが苦手な生徒が多く、帰りのSHRでの振り返りでは、各教科担任から厳しい声をもらうことがある。

指導にあたっては、前時の段階で「トラック業界の2024年問題」に関する概念の習得を予め行い、本時では「トラック業界の2024年問題」が、「私たちの生活にどのような影響を与えているか」、また「私たちにできることはないか」ということを、多くの資料から協働的な作業を通して学び取る時間をしっかりと確保していきたい。

6 題材の目標

- (1) 「トラック業界の2024年問題」とは、どのようなものであるか、その概念を習得することができる。
- (2) 「トラック業界の2024年問題」が私たちの生活に与える影響について、トラック事業者や荷主、一般消費者の3つの立場から考えると共に、私たちができることについて考えることができる。
- (3) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、それらを基に議論したりしようとする態度を養うと共に、身近な生活に置き換えて考えようとする。

7 指導計画（全2時間）

次	時	学習内容
1	1	「トラック業界の2024年問題」とは何か？について概念の習得
2	2	「トラック業界の2024年問題」の影響と私たち（本時2／2）

8 本時の目標

「トラック業界の2024年問題」が生じた背景を踏まえ、トラック事業者や荷主、一般消費者の3つの立場から考えると共に、私たちができることについて考えることができる。【知識・技能】

9 学習の展開

学習活動と内容	○指導上の留意点（◆評価）
1. トラックのCM(映像)と広島バスの前面(画像)から、輸送業界でどのような課題が起きているか予想する。	○ ペアで前時の内容について振り返る時間をとる。
2. 「トラック業界の2024年問題」が起きていることに気付く。	○ 運転免許制度の変遷や、時間外労働の上限規制が適応されたことを関連付ける。

「トラック業界の 2024 年問題」について、3つの立場から影響を考え、 私たちにできることについて提案することができる。	
3. 資料から「トラック業界の 2024 年問題」の影響について、3つの立場から読み取る。 ・「トラック事業者」の立場。 ・「荷主」の立場。 ・「一般消費者」の立場。 4. 3つの立場で、どのような影響が発生するか全体交流する。 5. 4の活動を踏まえて、「トラック業界の 2024 年問題」の解決について、私たちができることについて考える。 6. まとめとして、この問題は 2024 年だけにとどまらないことを知る。	◆ 多面的・多角的に「トラック業界の 2024 年問題」について考察している。【知識・技能】 ○ 資料をグループで読み取る時間をしっかりと確保する。 ○ 多面的・多角的に思考・判断することができるようにする。 ◆ 立場によって「トラック業界の 2024 年問題」が違ふことについて、相手にわかりやすい工夫して表現することができる。【思考・判断・表現】 ◆ 3つの立場の者が納得できるような解決策考えることができる。【主体的に学習に取り組む態度】 ○ 現在、起きている問題が将来に渡って起きる可能性について認識することができるようにする。

10 生徒が考えた、「2024 年問題」を解決するために、私たちにできることの例

- ・配達的时间指定をした際には、受け取り時間に自宅に戻り、ドライバーの再配達負担を減らす。
- ・ネット通販を利用する場合には、まとめて注文し、なるべく1回の配送で済むようにする。
- ・自宅のポストに「不在通知」が入っているのを見つけたら、保護者にすぐに連絡するように伝える。
- ・何でも買い物はネット通販に頼るのではなく、自分で買い物に行けるものは注文しない。
- ・両親が共働きの家庭のため、ネット通販の利用を止めたり減らしたりすることが難しいので、店の入口にあるネット通販の受け取りボックスを活用する。
- ・自宅の玄関先に受け取りボックスを設置するように、保護者に頼んでみる。
- ・ネット通販を利用する際に、全て翌日配送にするのではなく、必要に応じて翌日配送にする。
- ・「地産地消」という考えに立ち、輸送コストのかからない商品を積極的に購入する。
- ・置き配指定を利用する。
- ・配達業者が抱える課題を知り、理解に努める。
- ・配送業者に「いつも私たちの生活に欠かせないものを届けてくださりありがとうございます。」と感謝の気持ちを直接伝える。
- ・働き方改革や人手不足の影響で、物流の流れが悪いことを十分に理解する。

この課題設定については、保護者の力を借りなければならないことや、生徒の力だけではどうしようもできないことが多かったため、「2024 年問題を解決するために、私たちにできること」というゴール設定ではなく、「2024 年問題を解決するために、消費者ができること」と置き換える方が、生徒は答えやすかったのではないかと推測する。しかしながら、「地産地消」に考えを巡らせる、お礼を言う、「不在通知」が入っているのを見つけたら保護者に連絡を促すなど、何とか生徒のできることに考えを巡らせた点は、大いに評価する。

11 授業後の考察

今回の研究会で実施した授業で、「輸送業界の 2024 年問題」というテーマ設定を行ったのは、以下の理由からである。東雲小・中学校の社会科の共通認識として、目指す児童・生徒像を、

- ①学習を通して身につけた社会の見方を、日常の社会生活の事象や問題に照らし合わせて考えながら、学習する意味や価値を実感できる子ども（狭義）
- ②学習を通して身につけた社会の見方・考え方を総動員し、身近な日常生活の問題や社会問題を考え解決しようとする子ども（広義）

と設定している。このような目指す児童・生徒像を意識しながら、教科等本来の魅力を「学習内容が生活と密接に関わっていること」と捉えて、「輸送業界の 2024 年問題」というテーマ設定に至った。しかしながら、過去の研究会で実施した題材「ふるさと納税の功と罪 ～よりよい制度にするためには？～」や「立場によって変わる理想の円相場 ～1ドル何円が理想的？～」とは、生徒の反応が違ったというのが、授業で感じた第一印象である。端的に言えば、生徒にとって身近な問題として認識されていなかったように感じた。

「輸送業界の 2024 年問題」についての授業を、2年生のみならず3年生でも実施し、約 160 名の生徒を対象に授業実践をおこなった。その際、授業の前段階において「2024 年問題という言葉聞いたことがあるか？」や「2024 年問題について説明できるか？」という質問をした際に、1 クラス 40 人のうち、手を挙げた生徒は 4 名程度（約 10%）であった。過去 2 年間でも同様の質問を実施してきたが、「聞いたことがある生徒」や「説明できる生徒」の人数・割合はいずれも 10 名程度（約 25%）であったため、これまでの題材ではグループで活動した際に、各グループに 1 人は学習をリードできる生徒がいたが、今回はそれを期待することが難しいと判断したため、各省庁から発行されているパンフレットや、映像資料を複数用意し、概念の習得が完了したうえで探究的な学びができるように工夫した。同時に過去 2 年間は「ある程度見聞きしたことのある社会的事象を発展させること」に重点を置いてきたが、本年度については「授業を通じて生徒の意欲・関心が高まり、知識・技能が身につく、社会的事象を自分事として捉えることができるようになって欲しい」と考えるようになった。

その際に効果的であったのは、荷主（一般消費者に荷物を送りたい人）、一般消費者、トラックドライバーの 3 つの立場が、「2024 年問題」でどのような困り間を感じているか、資料をもとにして、立場を変えて考えさせたことである。生徒の意見は以下の通りである。

① 荷主（一般消費者に荷物を送りたい人）

- ・ 輸送業者に断られ、荷物を出荷できない可能性があること。
- ・ 必要なときに、必要なものを一般消費者へ届けられないこと。
- ・ 注文に発送が追いつかない。

② 一般消費者

- ・宅配サービスをこれまでのような頻度で利用出来なくなり、特に新鮮な食材が手に入りにくくなること。
- ・当日や翌日配達の手配が受けにくくなり、ネット通販を利用するメリットが減ること。
- ・ネット通販のプレミアム会員の配送が優先され、会員ではない人の配送が後回しになること。また、プレミアム会員であっても無料配送ができなくなる可能性があること。
- ・ふるさと納税をおこなっても、自宅から遠方の返礼品が生鮮食料品の場合に、受け取ることが難しくなること。

③ トラック事業者

- ・人材を確保することが難しくなり、従来取りの輸送が困難になること。
- ・荷主や一般消費者のニーズに応えられなくなり、両者の板挟みになりクレームを受ける可能性があること。
- ・1日にドライバー一人当たりが輸送する荷物の量が増え、200個を超える可能性があり、「働き方改革」に逆行していること。
- ・ドライバー不足になるということは、バスの運転手さんも不足することが予想されることから、公共交通機関を利用する人が不便になったり、衰退したりすることが予想され、過疎化の進行が早くなること。
- ・会社の利益が減ってしまうことが予想されるため、やむを得ず値上げする可能性があること。
- ・長距離輸送の人員確保ができないため、東京から大阪の輸送が一人のドライバーではできず、輸送園芸農業など社会の仕組みにまで影響を与えてしまうこと。

以上のような内容を生徒は読み取ることができた。単純に資料からわかることを読み取るのではなく、そこからどのような影響が予想されるかまで思考を巡らせていることは、大いに評価できる。また、研究授業後、生徒の生活ノートに、

- ・下校中、バスの前方部分に「ドライバー急募」という表示を見かけた。同じバス会社の他の車両とすれ違ったが、全ての車両に同様の表示があり、「2024年問題」がかなり身近な問題であると改めて実感した。
- ・買い物に行くと、店の入口にネット通販の受け取りボックスがあるのを見つけた。最近置かれたものではないようだったが、これまで気が付かなかったと同時に、授業で学習しなかったら今でも気が付かなかったかもしれない。実際に利用している人も見ることもできた。
- ・家庭でネット通販を多く利用するためプレミアム会員だが、最近は配達するドライバーの方の忙しさが段ボールの汚れ方や置き配のようすから窺うことができた。

このような生徒のようすから、「授業を通じて生徒の意欲・関心が高まり、知識・技能が身につく、社会的な事象を自分事として捉えることができるようになって欲しい」という目標については、概ね達成されたと考える。引き続き、「学習内容が生活と密接に関わっていること」とを意識しながら、教材開発を行っていきたいと考える。